

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000147		
法人名	社会福祉法人甲友会		
事業所名	グループホームロココ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市宝山町7番8の1号		
自己評価作成日	平成26年8月7日	評価結果市町村受理日	平成26年12月4日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成26年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特別養護老人ホーム(部屋数90室、通所介護35人) 介護老人保健施設(部屋数100室、通所リハビリテーション30人、訪問リハビリテーション)が併設されている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな住宅街の中の近代的な施設に併設されたグループホームである。建物の周囲は手入れの行き届いた木々や草花が植えられ落ち着いた過ごすことができる環境が整えられている。和風佇まいのホーム内は清潔感が感じられる。地域で開催される行事などの情報をもとに利用者と共に地域行事への参加を行い、交流の機会を持っている。歌体操・元タカラジェンヌのレビューなどボランティアの来訪を特養と一緒に交流を持っているようにしている。社会福祉協議会が地域にて開催している「ふれあいサロン」にも参加している。認知症サポーター研修の実施を企画し社会福祉協議会の協力を得て地域に向け事業所の機能を還元し交流が深まるように取り組んでいる。地域の商店街やコンビニへの買い物で地域とのつながりを持つようにもしている。近隣の商店街や店舗・コンビニへの買い物で外出の機会を持っている。また、特養の屋上や敷地内の散歩により外気に触れる機会を多く持つように支援している。季節に合わせて花見や外で過ごす外出の機会を利用者の状態や希望に合わせて集団や個別に持ち支援している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>社是・経営理念・基本方針を1枚にまとめ、必ず目にする玄関・スタッフルーム・職員トイレに掲示。また、職員の名札の裏にも入れている。</p>	<p>開設当初に謳われた社是・運営理念・基本方針をいつでも見ることができる玄関・スタッフルームに掲示している。新入職者の研修時に理念について理解を深めるために学ぶ機会を持つと共に、特養と合同で行われる職員研修の機会にも全職員で理念について学び理解を深め実践に活かすように取り組んでいる。日々ケアの実践の中で理念に立ち返り提供を継続的に行うように意識して取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>夏祭り等の地域行事への参加や近隣商店街への買い物や近隣公園への散歩、地域「ふれあいサロン」への参加。見学の受け入れを随時行っている。</p>	<p>地域で開催される行事などの情報をもとに利用者と共に夏祭りの地域行事への参加を行い、交流の機会を持っている。</p> <p>歌体操・元タカラジェンヌのレビューなどボランティアの来訪を特養と一緒に交流が持てるようにしている。社会福祉協議会が地域で開催している「ふれあいサロン」にも参加している。地区の介護事業所と地域とのつながりを持てるように社会福祉協議会が中心となり地域住民と事業所職員で高齢者部会を設け、地域に理解を深めてもらい積極的に交流の機会を持つよう取り組み始めている。認知症サポーター研修の実施を企画し社会福祉協議会の協力を得て地域に向け事業所の機能を還元し交流が深まるよう取り組んでいる。地域の商店街やコンビニへの買い物で地域とのつながりを持つようにもしている。</p>	

3	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を利用し、認知症予防や介護知識、パワーリハビリ等について話しをしている。</p>		
4	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年に6回実施し、家族や相談員の意見に耳を傾けている。</p>	<p>市高齢施策課職員、自治会長、民生委員、社会福祉協議会職員、介護相談員、家族代表者の方へ出席してもらい年6回開催している。入所者の状況、事業所の活動の予定と報告を行い参加メンバーより意見や提案を受けている。6月の開催時には、地域のイベント・行事の情報提供を受け利用者と共に参加し地域とのつながりを持つようになっている。</p>	<p>今後も定期的な運営推進会議の開催を継続し、事業所より課題や問題を提示し、参加メンバーより多くの意見や提案・助言をもとにサービス・ケアの質の向上を図り、利用者が地域つながりを持ちながら暮らし続けることができる支援に活かす取り組みの工夫が望まれる。</p>
5	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>豊中市役所や中央地域包括支援センターに運営推進会議の参加を求めている。</p>	<p>運営推進会議には市の担当窓口である高齢施策課の職員の方へ出席してもらっており、事業所の現状の把握はしてもらっている。事業所内で課題や問題が発生すれば随時に連絡を取り助言や指導を受け、サービス・ケアの提供がスムーズに行えるように努めている。</p>	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>入職時の研修に「身体拘束」に関する課目を取り入れ、毎年定期研修も実施している。併設特養での身体拘束ゼロ推進委員会会議にも参加している。</p>	<p>特養と合同の研修の機会の中で身体拘束をしないケア、虐待・人権について学ぶ機会を持ち実践している。カンファレンスの機会に実際の事例を通してミニ勉強会を実施し、理解を深めるように努めている。基本は身体拘束はしない方針で取り組んでおり、現場の中で拘束に繋がりそうな場面や状況について話し合いを行い、拘束をしないケアの徹底を図っている。利用開始時には家族様に拘束をしない方針については説明を行い、理解と納得・協力を得るように取り組んでいる。実際のケアの現場で拘束や虐待に繋がりそうな場面を見受けることがなく、管理者より現在拘束や虐待につながるようなケアの提供が行われていないことを話し、職員の意識を継続して持つように配慮している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入職時の研修に「高齢者虐待」に関する課目を取り入れ、毎年定期研修も実施している。併設特養での身体拘束ゼロ推進委員会会議にも参加している。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>資料を閲覧できるようそろえている。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者やご家族と入居契約の場を設け、契約書・重要事項説明書の内容を直接伝えている。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、苦情があれば報告書を掲示している。</p>	<p>家族が面会に来訪された際には、責任者・職員から積極的に声かけを行い、家族から意見や要望・提案などを言いたしやすいうように働きかけている。特に利用開始後間もない方には、声かけを行い話す機会を積極的に持ち、意見や要望を引き出すと共に利用開始直後の不安軽減に努めている。毎月発送する請求書と一緒に身体状況や普段の生活の様子を記載しお知らせしている。ブログには、イベントや行事の様子の写真を掲示しいつでも見ることができるようにしている。苦情・相談は書面に記載し記録として残すようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニットごとに連絡ノートを置き、利用者に関する申し送りとともに意見を記入してもらっている。毎月の各ユニット会議でも意見を挙げてもらっている。</p>	<p>ユニット会議・カンファレンスの機会に職員から意見や提案が出される。特養と合同で実施されるリーダー会議にも職員からの意見や提案が出され話し合が行われサービスや運営に反映させるように取り組んでいる。身体拘束・感染など特養と共に各種委員会を持ち、活動を通して職員からの意見や提案を出し、サービスや運営に反映させるようにも取り組まれている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>契約更新時や賞与考査時に評価シートを記入している。</p>	/	/

13	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回ユニットごとにスタッフミーティング（ユニット会議）を開催している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>協議会の定例会議に参加したり、入居希望者や空き情報の連絡をとったりしている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問面接を行ったり、本人やご家族に見学に来ていただいたりしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問面接を行ったり、本人やご家族に見学に来ていただいたりしている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族や他施設の担当者から話を聞いたり、入居直後は1時間ごとの記録を1週間つけたりしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>炊事・掃除・洗濯などの生活動作も手伝っていただき、自立支援を目指している。</p>		

19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会や外出を気軽に行っている。月に1度のイベントにも参加を呼び掛けている。</p>		
20	<p>8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族以外の方の面会も受け入れている。</p>	<p>利用者の知人・友人がボランティア活動で来訪され受入れを行い関係の継続を支援している。日常的な会話の中から馴染みの商店や場所を把握するように努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やお茶の時間。洗濯物をたたんだり、CDに合わせ歌を歌うなど、同じことができる時間を作っている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後の相談にのり、希望があれば併設特養の入所申込みを受け付けている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前の面接で聞き取りをし、「私の歴史シート・暮らし方シート」なども記入してもらっている。入所直後には細やかに行動を観察し記録している。</p>	<p>利用開始時の面談での聞き取りや家族の方の記載、協力で「私の歴史シート・暮らし方シート」などで情報を整理・まとめている。現在半数の方は自らの意向を訴えたり表現できる状況にある。利用者の言葉だけでなく、表情や行動・動きに注意を払い、思いや意向・希望を把握するように努めている。把握できた利用者の方々の思いや意向・希望は経過記録に残し、申し送りノートへの記載を通して職員間の情報共有を図り、支援に活かすように努めている。</p>	<p>自ら思いや意向・希望を訴えることが困難な状態になった時に活かせるように利用開始後に把握できた利用者の思いや意向・希望なども記録として残していく取り組みが望ましい。</p>
----	---	---	--	--

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>ご家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ご家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居前面接で本人、家族の意向をうかがう。以後は現状に合わせたプランを作成し、家族に提示している。</p>	<p>アセスメント用紙に把握できた情報を記載・整理している。契約時の面談での内容は面談シートや、家族にアンケート用紙にこれまでの生活の様子や状況を記載してもらい、情報収集・アセスメントを行っている。計画作成担当者が施設サービス計画書を作成し、施設サービス計画書のサービス内容に沿って利用者への支援を行っている。計画に沿って支援した事項はケアサービス管理表に記載すると共に、介護記録に利用者への支援した内容・結果・生活の様子などが記載されている。モニタリング実施記録表で計画の見直しの必要性（計画の適正度）を見ている。</p>	<p>より利用者への支援を統一して行うために施設サービス計画書のサービス内容をもとに全職員でより具体的な支援・実施方法を記載した個別支援計画書の作成を行うことが望ましい。</p>
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアチェック表や介護記録をつけている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設施設の器具や送迎車を活用することで、運動したり大勢で外出したりが可能である。</p>		

29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>介護相談員が毎月来設。利用者の様子をご覧になり、意見を聞かせてもらっている。</p>		
30	<p>11</p> <p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同じ建物内にある診療所から隔週に訪問診療を受けている。</p>	<p>同建物内にある診療所から2週に1回の往診を受け、健康・疾患管理を行ってもらっている。利用者・家族の希望によりこれまでの馴染みの医療機関への受診もできるようにも支援している。個人往診記録表に普段の様子や状態を職員が記載し往診医に情報提供を行うと共に、往診の結果や医師の指示なども記載されている。同敷地内の特養の看護師にいつでも相談できる体制が整えられている。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設された特養施設の看護師から、異常時には支援を受ける体制を整えている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に先方の病院へ情報を提供している。入院中は見舞いに行き、様子を聞いてくる。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前面接で大まかな意向を伺っている。併設された特養への転所を勧めることがある。</p>	<p>契約時には、事業所で看取りをしない方針であることを説明しているが、利用が長く家族の強い希望があれば段階に応じて説明話し合いを行う中で看取りまで行うこともある。家族のグループホームでの看取りの希望があり、往診医の協力体制が取れば看取りまで実施する。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時に研修を行っている。マニュアルを閲覧できるように置いている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設された特養と合同で、消防訓練を実施している。(年2回・昼夜想定)</p>	<p>併設の施設と合同で避難誘導訓練を年2回昼夜想定で実施している。近隣との連携や協力体制を整備するには至っていない。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという尊敬の眼差しを常に持ちながら親しみを感じていただくよう心がけている。個人情報保護やプライバシーについての研修も法人内で定期的に行っている。</p>	<p>入浴や排泄ケアなどそれぞれのケアの研修や個人情報保護の研修の機会に利用者の尊厳やプライバシーについての内容を含めて学ぶ機会を持ち、職員の理解を深めるように取り組んでいる。</p>	
----	----	--	---	--	--

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>お茶やおやつの中には希望を伺ったり、外出や入浴等は本人の意向を確かめる。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活という制約の中で、可能な限り本人のペースを最優先している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご家族の協力を得て、本人の望みに対応している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>テーブルを拭いたり食器を並べたり盛りつけをして、準備の段階から食事を楽しんでいた。</p>	<p>特養の厨房で調理された食事の提供を受けている。テーブルを拭いたり、盛り付けや食器の準備・後片付けなど利用者の状態や希望に応じて職員と一緒にやっている。おやつやグループホームで実施する食事レクリエーションに必要な食材は利用者と共に散歩を兼ねて買い物に出かけ、食事の一連の作業を一緒に行っている。外食も楽しめるように外出の機会を持っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士による献立を提供している。水分量も1日1500mlを確保できるように記録している。(身体的に制限のある人は除く)</p>		

42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時と就寝時には職員が、口腔ケアをしていただくようチェックしている。また訪問歯科への紹介も行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>夜間も含め、排泄パターンを記録から読み取り、適切なタイミングでトイレの声かけをしている。</p>	<p>ケアサービス管理表で排泄の状況やパターンを把握しており、気持ちよく自立した排泄ができるように支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取の確保とヨーグルトや食物繊維のおやつ等を提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>浴槽のまたぎが困難な利用者には2人対応での入浴やシャワー浴+足浴を楽しんで頂いている。</p>	<p>週2回の入浴を基本とし、個別に入浴できるように支援している。ADLの低下により個別で浴槽に入ることが難しい場合には、2人介助で入浴を対応することもある。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居前から使用されている寝具を持ち込んでいただいている。</p>		

47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者毎のケアチェック表に服薬している薬の内容一覧を綴じている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前面接で本人や家族から聞いたり、日々の会話から知るようにしている。</p>		
49	<p>18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>季節や時期に合わせて出来る限り散歩や外気浴を行っている。イベントとして車でのドライブ外出もおこなっている。</p>	<p>近隣の商店街や店舗・コンビニへの買い物で外出の機会を持っている。また、特養の屋上や敷地内の散歩により外気に触れる機会を多く持てるように支援している。季節に合わせて花見や外で過ごす外出の機会を利用者の状態や希望に合わせて集団や個別に持ち支援している。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族から3,000円をお小遣いとして預っている。散歩時に店先で買い物をされることもある。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら行うのが困難な方には、月に一度ご家族への近況報告を職員が代わりに書いている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の掃除を行っている。散歩の際に摘んできた花を飾ったり、手作りのカレンダーを壁に取り付けたりしている。</p>	<p>共有スペースは明るく清潔である。壁面には利用者手作りの作品を飾り雰囲気を和らげ、落ち着いてゆったりと過ごせる環境作りが見られる。。室内の清掃は職員が中心に行っているが、利用者の状態で掃除機かけを手伝ってもらい共有スペースを清潔を保てるようにしている。テーブルやいすの配置を利用者の希望や状態・関係に応じて変更し環境を整えている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには人数分のいすをテーブルのまわりに並べ、壁にはソファを置いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>クローゼットとエアコン、カーテン以外には本人のなじみのある家具を持ち込んでいただいている。</p>	<p>ゆとりのある居室に、洗面台・クローゼットが備え付けられている。利用者・家族が持ち込まれた馴染みの物品を置き、利用者の想いが感じられる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室には手すりを設置している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない